



授業参観・懇談会に参加いただきありがとうございました。

5月1日は、午前中の開催にも関わらず、多くの保護者の皆様方に授業を参加していただき、ありがとうございました。1年生の児童は、入学して約3週間でしたが、様子はいかがだったでしょうか。年度によって学年の様子も変わってきますが、



今年の1年生は落ち着いて見えます（今後、どうなるかは分かりませんが…）。また、他の学年に関しても、校内の組織を大きく変えたために、落ち着かない様子が多く出てくることを予想していましたが、比較的スムーズな出だしとなっているようです。学校を大きく変革させているのは、何と言っても子どもたちの主体性を育むためです。多面的、多角的に子どもたちの良さを見ていきながら、自己肯定感を高めていくことで、主体性を育てていきたいと思っています。まだまだ始まったばかりで、今後の見通しは確かなものとは言えませんが、職員一同、児童が安心して登校できる学校づくりを進めて参ります。保護者の皆様方も、お気づきの点等がございましたら、遠慮なくお伝えいただけると幸いです。

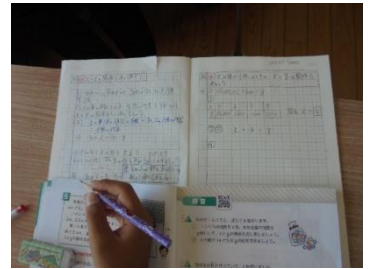


今年度は、保護者の皆様方にも授業参観・懇談会を開催しました。ご参加いただき、誠にありがとうございました。ご参加いただいた皆様、ご声援ありがとうございました。ご参加いただいた皆様、ご声援ありがとうございました。

チーム担任制で大切な事！

チーム担任制を推進していくにあたり大切なことの1つは共通実践です。担当教師が変わるたびに言うことが違う、やり方が違うと、混乱するのは子ども達です。混乱をそのままにしておくと、やがて学級崩壊へとつながっていきます。そうしたことにならないために、学級経営の要所においては、共通した方法が必要になっ

てきます。その最たるものが授業での板書であったり、ノート指導であったりします。このことは、実は子どもたちだけのメリットではなく我々教員にもメリットがあります。各学年組織は、ベテラン・中堅・若手の職員で構成されています。教員の経験年数の違いは、そのまま対応力の差となります。共通実践は、そうした差を短期間で埋めていくための人材育成のシステムにもなっています。勿論、これまでもそうしたシステムはありましたが、固定担任制の場合、きちんとやっているのかどうかという「みかじめ」の部分が弱いという欠点もありました。今回は、出来ているかそうでないかは、ベテランや中堅の職員が直接見ていくことになります。同じ学年に在籍する児童に、同じ教育を提供するということを念頭に置いて取り組んでいきます。



令和8年度 学校教育目標

共に学び・支え合い 未来を切り拓きながら
自分を磨き続ける児童の育成

私自身、一人の教育者として考えていることは、関わりがある、関わりがあった子どもたちが、自分自身の価値観を持って幸せに生きていってほしいということです。そこで、幸せに生きるとはどういうことなのかということにぶつかります。私自身が考える幸せの価値観が、学校教育目標に反映されていることは否定できませんが、できるだけ多くの方が納得できるようにということと、日本の教育、熊本県の教育、菊陽町の教育が目指す方向性を加味しながら設定しています。

人が幸せに生きていくためには、その時代に応じながら自分自身を変化させていく必要があると考えています。その自分自身の変化に必要なことが、人との関わりと新たな学びではないでしょうか。人と豊かに関わることは、自分自身の価値観を広めたり、深めたりすることに繋がります。新たな知識などは、自己の考えを深化させることに繋がります。そうして自分を磨き続けることが、自分自身が幸せだと思えることができる人生につながるかと考えて、このような学校教育目標を設定しました。

人生＝自己研鑽の日々だと思っています。